

中小企業向け環境マネジメントシステム 簡易版EMS“エコアクション21”のご案内

環境マネジメントシステムが、 低コストでスピーディに導入

続々と導入が
注目の中小
環境マネジメ

●導入しやすい中小企業向け 環境マネジメントシステム

調達先に環境配慮を要求するいわゆるグリーン調達の評価基準に、ISO14001の認証取得を取り入れているところが多くなっています。しかし、ISO14001の認証取得は、中小企業にとってコストや労力の問題から負担が大きいものとなっていました。そこで、今、注目を集めているのが、中小企業向け環境マネジメントシステム(簡易版EMS※1)。ISO14001に比べて低コストで、スピーディに導入できるため、中小企業では続々と導入が進んでいます。

こうした簡易版EMSの代表的なものとして、エコアクション21、KES、エコステージなどがあるほか、これらを地域でアレンジしたシステムもあり、いずれもISOのデメリットや足りないところを取り入れ工夫されています。

※1:EMS=Environmental Management Systemの略称
簡易版EMSは、ISO14001では規格要求事項が多くなるため、中小組織が本来の環境マネジメントを行なうのは困難との要請から誕生したものの。

●特に注目を集めているのが、 エコアクション21



エコアクション21、KES、エコステージについて、ISOエコアクション21との比較表でまとめているのですが、どれも審査費用が低コストで、審査までの所要期間も短く、導入しやすいものとなっています。

どのEMSを採用するかは、企業ごとのさまざまな条件を勘案しながら決定することになりますが、今年4月1日施行、その後改正された廃棄物処理法施行規則では、処理業者の優良性の判断に係る評価制度が採用されました。この中で、環境保全への取り組みについては、ISO14001に加え簡易版EMSとして、エコアクション21(相互認証されたEMSを含む)の認証取得が挙げられています。

現在のところ、エコアクション21と相互認証された簡易版EMSは他にありませんので、エコアクション21の認証取得が急速に拡大するものと考えられます。

●エコアクション21の歴史

ISO14001が発行された同じ年の1996年に環境庁(現在の環境省)によって環境活動評価プログラム(エコアクション21)として発行されました。深刻さを増す地球温暖化をはじめとする地球環境問題に、中小企業でも取り組んで欲しいほしいとの背景からです。当時は登録制度で、目標を設定して取り組むことを宣言するものでした。

その後、認証の必要性が検討され、昨年のパイロット事業を経て、この4月にエコアクション21(略称:EA21):認証・登録制度に移行しました。

●エコアクション21のメリット

こうした、エコアクション21の認証取得のメリットといえば、一言でいうと、ISOに比べて、安く、簡単に、早く構築できることです。また、ほかの簡易EMSに比べて、国や自治体、大手企業から支持されていることでしょう。さらに、審査では審査人に助言を受けることができ、審査を通じて改善活動ができると考えればよいでしょう。これは、ISOと異なり、大きなメリットといえます。

●エコアクション21認証・ 登録制度の概要

審査を希望する事業者はエコアクション21地域事務局に申し込みます。この際、審査人を指名することができます。審査人は現在342名が登録されていますが、注目度が高

ISO/エコアクション21/KES/エコステージの比較

	ISO	エコアクション21	KES	エコステージ
登録件数 (2005年8月21日調査時点)	18,511	448	難易度1:334 難易度2:147 学校: 4	難易度1:122 難易度2: 9 難易度3: 3 難易度4: 1
コンサル費用※3	高	少	少	中
審査登録料※3	高	少	少	中
		15万円~	26万 (ステップ1+2)	34万~ (含む事前評価)
30~99名の製造業の場合※3	約120万円	30万円	26万円	54万円
構築の難易性	高	小	小	小~高
審査の方法※3	コンサル不可	助言が前提	助言が前提	評価が基準
審査までの所要期間※3	10ヶ月~	6ヶ月~	6ヶ月~	
特徴※3	国際的	国内 環境活動レポート による情報公開	ローカル	段階式評価 ISO取得はレ ベル2に相当
公式サイト	http://www.jab.or.jp/ (JAB)	http://www.ea21.jp/	http://web.kyoto-inet.or.jp/org/kesma21/	http://www.ecostage.org/

※2: 2005年8月21日調査時でホームページなどに公表されている資料から作成したものです。
※3: 筆者の見解を入れて作成したものです。

く、次の試験で相当増えるものと思われます。

審査には、まず書類審査があります。不備があれば審査人は助言をし、事業者はこれを改善します。このままでは現地審査が無理と分かれば、審査人と相談の上、予備審査を受け、適切な助言を受けることができます。その後、現地審査が行われ、ここでも適切な助言を受けながら改善を目指すことになります。

現地審査終了後、審査人の報告書に基づき地域事務局の判定委員会で審議され、登録手続きを経て、認証となります。

可能に。

進んでいる、 企業向け ントシステム

<エコアクション21の構成>

環境経営システムガイドラインと環境活動レポートガイドラインから構成されています。前者はISO14001の規格に相当し、後者はエコアクション21特有のもので、環境活動の取りまとめと公表に関するものです。従って、この両方を満足させなければいけません。

<環境経営システムの要求事項>

ISOと同様にPDCAサイクルで構成されています。

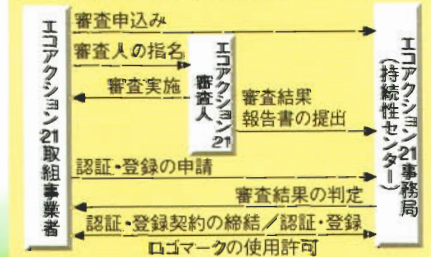
環境経営システムの要求事項はISOの17項目より少ない12項目となっています。主な特徴は、次の通りです。

- 要求事項と推奨事項に記述され、解説されている。
- 自社の環境負荷(影響)や取り組むべき項目を調べるチェックシートが用意されており、これに該当する欄に記入する(実際にはエクセルを使って入力)だけで済む。
- 文書は7つ、記録は8つが必須項目。
- 内部監査は推奨事項で、要求事項ではない。

<環境活動レポートの要求事項>

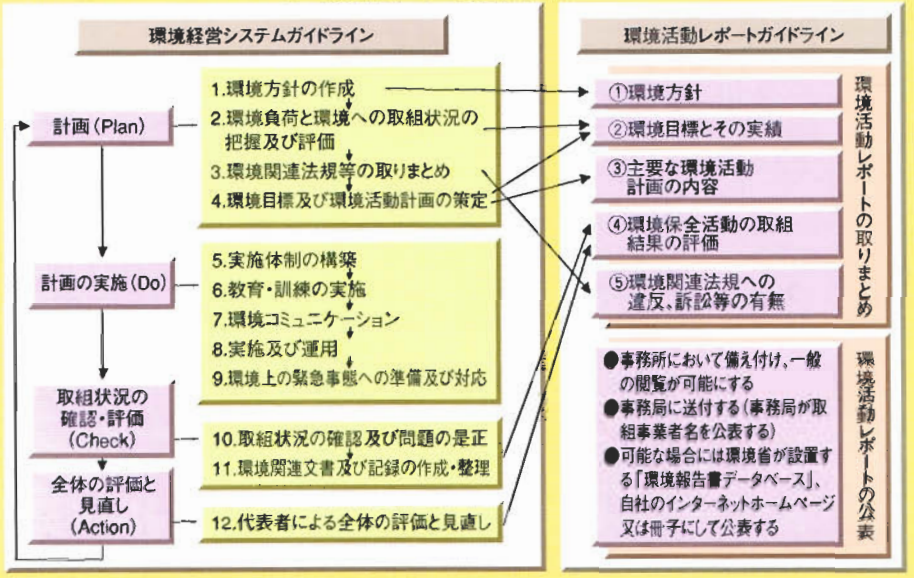
記載内容の要求事項は次の通りです。

エコアクション21認証・登録制度のフロー



イメージ写真

環境経営システムガイドライン及び環境活動レポートガイドライン



- 環境方針
- 環境目標とその実績
- 主要な環境活動計画の内容
- 環境活動の取組結果の評価
- 環境関連法規への違反、訴訟等の有無
- 事業所の概要

一般の環境報告書と違って、A3サイズ用の用紙裏表1枚でまとめることもできます。

環境活動レポートの公開についての要求事項は、次の通りです。

- 事務所に備え、一般の閲覧を可能にする。
- 可能であればインターネットなどで公開する。

<審査人について>

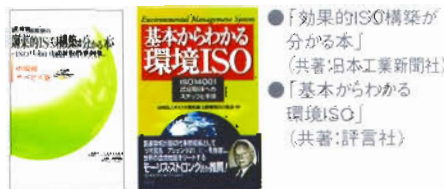
審査人は、経験や資格などの力量に加え、①論文、②筆記、③面接の3つの試験後、研修を受けたものが登録されます。審査人は、審査の課程で有効な助言ができればその資格がないとされています。また、常に「どうしたらもっと中小事業者がエコアクション21に取り組んでもらえるか」を考えて審査に望むことになっています。

●エコアクション21構築のポイント

エコアクション21を構築していく上で、一番のポイントとなるのは、自社に見合ったシ

ステムにすることです。また、目標を立てて、その効果を出すことに力点が置かれていますので、この仕組みを使ってコストダウンに役立てることを狙いとすべきです。審査人の助言を大いに活用して目標の達成を目指したいものです。

ISO14001は難しそうだが、費用がかかってとても手が出ない、と諦めていた事業者にも、最適な環境マネジメントシステムとなるエコアクション21。低コストかつスピーディに効果的なシステムが構築できるため、ぜひ、チャレンジみてはいかがでしょうか。



イメージ写真